立派な櫓（やぐら）は明治22年造
おっきん椋川おどりの会

『椋川には昔から伝わる音頭があり、それを昭和40年ころ、地域の音頭をとるお年寄りから教えてもらいました。お盆前には毎夜、お宮さんで練習して、8月14日には櫓をたて、青年団の行事として踊りを行うようになりました。

近年は人が少なくなったこともあり、しばらく盆踊りをしていませんでしたが、4年前にお宮さんの蔵にしまってあった櫓を出して修繕をしました。櫓は明治22年に造られた立派なものです。今でも大切に使っています。

現在、音頭をとっている高齢の人が歌えなくなったとき、テープだけの踊りになってしまうのが心配です。地声の迫力がなくなるとずいぶん音頭も変わってくるでしょう。』

（おっきん椋川おどりの会　圓口藤嗣さん）

復活した椋川櫓

厳粛な奉納踊りが起源
諏訪踊保存会

『諏訪踊りは安曇川町北船木の諏訪神社の祭礼で踊られる奉納踊りで、古くは神社の正面を踊り場とする大変厳粛なものであったと伝えられています。現在の音頭、踊り、山車などが確立されたのは明治時代初期のことだったといわれています。

現在の保存会は、約25人で構成され、諏訪神社の祭礼のほか、本庄小学校の運動会や青柳区の盆踊りにも音頭取りとして参加をしています。

一番の問題は後継者不足です。特に諏訪踊りは伝統のある奉納踊りなので、何としてでも後継者の育成に努め、伝統を絶やさないようにしたいと思います。

パソコンや携帯電話の普及が常識となった現在でも、私たちの先人が培い、伝え、守ってこられた優れた文化を、一人でも多くの子どもたちに伝えていきたいと考えています。高島市に生まれてよかった、高島市で育ってよかったと思える素晴らしい文化を少しでも多くの市民に伝えていくことが私たちの役目ではないかと思います。』

（諏訪踊保存会・駒井賢次さん）

諏訪踊保存会（H19.11 近江・伝統文化の祭典で）

簡単なものから難しいものまで
朽木地区高島音頭保存会

『朽木谷一帯で踊られる盆踊りは「ヤッサ踊り」とも呼ばれます。市内で広く踊られる高島音頭とほぼ同系統のものと考えられますが、その起源には諸説があるようです。

昔は、夏の盆踊りになると村のお年寄りが音頭を披露し、興味をもった子どもは、お年寄りのところに音頭を習いにいきました。音頭のなかにも、簡単なものから難しいものまであり、最初は「おすま音頭」を習い、次に「鈴木主人（すずきしゅじん）」、「一ノ谷」、「源平合戦」と続きました。

今後は、できるだけ市内各地で、若い人にもっと音頭を学んでほしいと思います。』

（朽木地区高島音頭保存会　佐々江庄太郎さん）

朽木音頭（H19.11 近江・伝統文化の祭典で）

朽木古屋 六斎念仏踊り

京と若狭の結接点に伝わる踊り

古屋地区に現在も伝わる六斎念仏踊りは、市内では唯一、県内でも数少ない民俗芸能として、平成10年に滋賀県選択無形民俗文化財に選定されました。古屋地区の玉泉寺では毎年8月14日の夜、太鼓三人、笛・鉦各二人の計7人によって、古くからこの地域に伝えられてきた念仏踊りが奉納されています。

六斎念仏とは、本来は、仏教の教えの中に定められる六斎日に行われる念仏のことで、現在も京都周辺地域で盆や地蔵盆に数多く行われていることから、京都を中心に念仏が芸能化して民衆に広まったものと考えられています。当初は、念仏を中心にした地味なものであったと思われますが、民衆への教化のため、太鼓や鉦が加えられ、行事として定着していったものと考えられます。

古屋の六斎念仏踊りの起源は、空也が京都で始めた念仏踊りであるとも、また一説には若狭から伝わったものであるともいわれています。もともと朽木地域の中でも六斎念仏が伝えられたのは滋賀県のもっとも西側にあたる京都府と福井県の県境に近い山間部の集落のみで、地元の人々の話によると、針畑郷とも呼ばれるこの付近の谷筋は、日本海と京都を結ぶルートの一つであり、古くから若狭と京を往来する人々や荷物が数多く通ったので、この付近の地区には、さまざまな京・若狭の文化や芸能が伝わっているのだといいます。

今から約30年前までは、針畑の生杉と古屋という二つの地区で、それぞれお盆のころに六斎念仏が踊られていましたが、現在は古屋のみになっています。

古屋では、8月14日の夜、玉泉寺に浴衣に下駄をはいた踊り手が集まってきます。使う楽器は太鼓と笛と鉦で、太鼓は六斎太鼓と呼ばれる胴の部分に持ち手のついた小ぶりのもので、鉦は長めの紐がついたものをバチでたたきます。踊りは、芸能的要素の強い、動きのあるものです。現在行われている六斎念仏踊りは、昔から伝わってきた形態とはやや異なるもので、もともとは古屋の六斎念仏踊りは、踊り手と演奏者が集落内の各家を回って、順に家の庭先で踊るというもので、今から十数年前までは、この形態での踊りが行われていました。当時、古屋には20軒の家があったので、20回の六斎念仏を踊るにはほぼ一晩を費やしたといいます。

盆踊り予定

（主なもののみを掲載しています。日程は変更になることがあります。）

8月 1 日	今津夏祭り（やっさ今津）
8月13日	椋川盆踊り（または14日）
8月14日	朽木地域盆踊り・古屋六斎念仏踊り
8月23日	中ノ庄地蔵盆
8月30日	諏訪神社奉納踊り